

## 潜水船調査に基づいた東部南海付加体の古銭州海嶺衝突による変形過程の解明

## Deformation structures by the paleo-Zenisu Ridge subduction/collision in the eastern Nankai prism based on the submersible surveys

# 川村 喜一郎 [1]; 小川 勇二郎 [2]; 安間 了 [3]; YK05-08 Leg2 乗船研究者 [4]; YK06-02 乗船研究者 [4]

# Kiichiro Kawamura[1]; Yujiro Ogawa[2]; Ryo Anma[3]; Shipboard Scientific Party YK05-08 Leg2[4]; Shipboard Scientific Party YK06-02[4]

[1] 深田研; [2] 筑波大・生命環境・地球進化; [3] 筑波大・生命環境; [4] -

[1] FGI; [2] Earth Evolution, Univ. Tsukuba; [3] Life-Environment, Tsukuba Univ.; [4] -

<http://www.fgi.or.jp>

南海付加体での天竜海底谷に沿った潜水調査船による地質調査は、1997年の「かいこう」による#42潜航調査から始まり、YK03-03、YK05-08およびYK06-02の「しんかい6500」による潜航調査に至るまでの間、東部南海付加体の地質学的な知見をもたらした。東部南海付加体は、銭州海嶺のような海嶺が複数回衝突したことが知られており、複雑な変形過程を経験していると考えられる。

本発表では、97年から行ってきた露頭観察や採取岩石の測定によって行われてきた地質調査に基づいた天竜海底谷に沿った東部南海付加体の地質を詳細に報告する。そして、南海付加体の物性、力学特性、磁化特性および放射虫化石年代に基づく分帯と付加体の成長過程、さらに古銭州海嶺衝突による変形過程とその後の付加体の回復について論じる。

付加体の研究は、従来までは、掘削船によるODP掘削、調査船を用いた地震探査が行われてきた。それらを併用することによって、掘削コアによるマイクロ構造、地震探査イメージによるマクロ構造を知ることができ、南海付加体の実態に迫ることができた。

一方、陸上では、物理探査、ボーリング、地表踏査が行われ、それらを併用することによって、地質構造を調査してきた。特に、地表踏査は、それらの中でももっとも重要な位置を占め、物理探査結果やボーリングコアの解釈は、地表踏査の結果に基づいて行われてきた。

そのような視点に立つてみると、これまで行ってきた潜水調査船による海底谷沿いの地質調査は、陸上での地表踏査に当たると言える。私たちの行ってきた調査は、地震探査イメージや掘削コアを解釈する上で重要な位置を占めると信じている。